

産業建設委員会記録

令和 8 年 1 月 22 日(木)

13 時 29 分～15 時 13 分

全 員 協 議 会 室

【委 員】村木委員長、西田一平副委員長、

今田委員、村木委員、大谷委員、川上委員、小川委員、笹田委員

【議長・委員外議員】森谷議員、川神議員

【執行部】

(産業経済部) 佐々木産業経済部長、久佐産業経済部参事、大谷産業振興課長、

永見水産振興課長

(都市建設部) 倉本都市建設部長、松井建設企画課長

【事務局】小寺書記

議題

1 所管事務調査

(1) 「浜田漁港・浜田港に関する取組課題」に係る外部団体について

【産業振興課・水産振興課・建設企画課】

(2) その他

2 取組課題について(委員間で協議)

(1) 浜田漁港・商港の活性化

(2) 中山間地域の再生

3 その他

(1) 自由討議

ア 道の駅ゆうひパーク浜田について

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[13 時 29 分 開議]

○村木委員長

出席委員は7名で定足数に達しているため、産業建設委員会を開会する。
それでは、レジュメに沿って進める。

1 所管事務調査

(1) 「浜田漁港・浜田港に関する取組課題」に係る外部団体について

○村木委員長

本日はこのような形で所管事務調査にご対応いただき、感謝申し上げます。
早速、資料を活用する。執行部から補足説明はあるか。

○産業振興課長

報告資料のうち、9番の「物流機能・港湾利用の再生」についての9-1「船会社の減少・物流量低迷への対応」という箇所の物流量の低迷についてであるが、現在、島根県のKPIや浜田市の総合振興計画の目標値に、浜田港の国際コンテナ貨物取扱量の増加を掲げ、ポートセールスや荷主支援に取り組んでいる。コンテナ貨物取扱量の実績であるが、令和4年度には3,309TEU、令和5年度は3,826TEU、そして昨年度の令和6年度は4,654TEUと、過去最高のコンテナ貨物量を記録している。また、先月12月末時点で、昨年度比110.4%の4,004TEUで推移しており、コロナ禍以降、貨物量は増加しており、物流量の低迷とはなっていないと認識している。

○村木委員長

この補足説明に対して、委員から質疑はあるか。

○笹田委員

過去最高ということで喜ばしいことだとは思いますが、船会社は減少している。船会社が複数あったときよりも、現在1社で運航しているほうが、取扱量が多いという認識か。これが2社になればさらに増えるということか。

○産業振興課長

船会社が2社の時期が2年あり、その時期の令和2年度は最高が4,539TEUであった。令和6年度は4,654TEUということで、船会社が2社のときよりも貨物量は増えている。令和7年度も今、順調に推移しているので、船会社の減少が貨物量の低迷にはつながっていないという認識である。

○笹田委員

右肩上がりで推移しているとのことであるが、これが仮に2社になった場合は、さらに増加する見込みなのか。

○産業経済部長

これは鶏が先か卵が先かという話である。以前は、韓国の船会社は南西海運のシノコーの2社で、週2便体制で運航していた。その際、南西海運は船が大型化し

1,000TEUの船をメインにするとしたときに、浜田港には1,000TEUの船が入港できないという問題があり撤退した。南西海運が復活するには1,000TEUの船が入港できる岸壁が必要となる。現在はシノコーの1船団が週1便で運航している。これまで韓国の本社にもポートセールスを行ってきたが、企業にとっては週2便のほうがリードタイムなどを考えると当然望ましい。利便性が高くなれば、貨物が増えていく。韓国本社に確認したところ、取扱量が6,000TEUくらいあれば週2便を検討できるとのことである。そのため、今年度は5,500TEUであるが、来年度は週2便化を目指して6,000TEUを目標としている。6,000TEUを達成すれば、現在の船会社による週2便化、あるいは他の船会社の参入も考えられるが、南西海運が入るためには1,000TEU級の船が入れる岸壁を整備しなければならないという課題もある。

○村木委員長

それでは、全体の質疑に入りたいと思う。委員から質疑はあるか。

○川上委員

7-2「漁業者のセカンドキャリア支援」という部分についてだが、これはどういう意味合いで記載されたのか。

○村木委員長

こちらの課題は当委員会が提示した内容である。

○川上委員

それに対して書いてある項目が理解できない。

○水産振興課長

7-2の「漁業者のセカンドキャリア支援」だが、漁業を引退された方のセカンドキャリアとして、水産関係に就かれるのか、あるいはそれ以外の職種を希望されるのか、この項目だけでは判断できなかったが、まずは、こういった相談があれば、本人が水産関係の職に就きたいかどうかを確認し、JFしまねや浜田漁連協同組合に相談するのではないかと考え、関係団体として記載した。

○川上委員

これに加えてハローワークが出てくるかと思ったが、記載がなかった。

○水産振興課長

もちろん、水産関係に限らず広い範囲でセカンドキャリアを探す場合は、ハローワークなどで求人を探していただくことになる。

○村木委員長

課題側は当委員会が示したもので、まだ中身がない中で外郭団体を列挙していただいている。ご理解願う。

項目1から14、さらに詳細を分けた各項目について、執行部で想定される外部団体案が示されているが、これに関して質疑はあるか。今後、関係者に向けて現地調査やヒアリングを行っていく上での窓口になろうかと思う。

○大谷委員

商港の活性化に向けては、コンテナ船の岸壁を整備しなければならず、そのため

には海底を掘って深くする必要があると思う。今後の対応の必要性について、現状を把握したいのだが、県の対応や計画の状況はどのようになっているか。

○建設企画課長

福井地区の大型船への対応については、島根県が平成 29 年度に改定した浜田港港湾計画において、福井地区の岸壁を 280 メートル延伸することで対応することになっている。委員が言われた海底を掘って深くするという計画はない。

○都市建設部長

昨年度の初旬までは、水深を深くするために海底を掘るという方向で国も検討していたが、その結果、非常に高額で実現が難しいだろうということで、その計画はなくなった。現在の港の状況であるが、老朽化対策で岸壁の補修を行っているため、使用できる岸壁が短くなっている。そのため、防波堤を利用して 75m 延伸している状況で、まだ完成していないが現在施工中である。

○村木委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(2) その他

○村木委員長

執行部から何かあるか。

(「なし」という声あり)

委員から何かあるか。

○笹田委員

今回、課題を出して関係団体について聞いた。できることは一緒になって浜田市のためにやっていかなければならないと思うので、引き続き、連携しながら進めていきたい。よろしく願います。

○村木委員長

それでは、以上で所管事務調査を終了する。

執行部はここで退席されて結構である。暫時休憩する。

(執行部退席)

[13 時 43 分 休憩]

[13 時 47 分 再開]

2 取組課題について (委員間で協議)

○村木委員長

前回、所管事務調査の報告ということで議長に提出した。委員にはあらかじめ通知したところであるが、再度確認をお願いする。調査事項、調査目的、そして調査方

法として、先ほどの執行部との課題共有のための聞き取り、今後の現地調査、情報・資料収集、先進地視察、その他といった内容の文書を提出したので報告する。

(1) 浜田漁港・商港の活性化

○村木委員長

先ほど所管事務調査として、取組課題に係る外部団体について確認をしたが、その後どのような調査をして進めるか協議したい。

○笹田委員

本日、取組課題について聞く団体が分かったので、その団体に何を質問しに行くのかを整理する必要がある。今後しっかりと考えた上で、どこを訪問するかを皆で決め、その都度協議すべきかと考えている。ただ、課題は多いので、各委員の宿題としてでも、何を聞きたいかを含めて早めに考えていく必要がある。

○村木委員長

訪問先や外部団体は決まったが、具体的にどのようなことを質問するかを整理していきたいとの意見があった。場合によっては、宿題として検討することも含めて進めていこうというところである。笹田委員がLINE WORKSで各委員に案内した、外部団体をベースにしたまとめ資料も参考にしながら進めていきたい。

○笹田委員

課題はここに書いてあるとおりであるので、その課題についてどのような質問をするか。相手が浜田市に対して望んでいることは何かといったことを聞く必要がある。そういった整理が必要だと思うので、各委員で考えて抽出して進めるべきかと思う。

○川上委員

取組課題の一覧表を見たが、共通する部分かなりあるので、これらをまとめながら進めていく必要があると思う。

○笹田委員

各団体に何を聞くのかを整理した。課題は多岐にわたるので両方の団体に聞く必要も出てくる。そこは整理したい。

○川上委員

文書で照会することも可能である。

○笹田委員

全てを訪問する必要はないと考えている。ただ、実際に話を聞かなければ分からないこともあると思うので、訪問すべき先は各委員で協議して決めるべきである。また、文書でお願いして回答が得られるものであれば、それでも良いと思う。

○村木委員長

これは全員で調査するイメージか。

○笹田委員

私がたたき台を作成しようと思うので、各委員に不足している部分を出してもらえればと思う。早急に考え、またLINE WORKSで示したい。

○村木委員長

班でピックアップをするということである。

それと、浜田港振興会についてであるが、これは提案になるが、委員会として、まずは浜田港の現状確認ということで、浜田港振興会との意見交換を全員で行いたいと私自身は思っているが、これについて意見はあるか。よろしいか。

(「はい」という声あり)

浜田港振興会については、早速着手をしたい。日程調整だが、事前打合せでは、2月10日の週で浜田港振興会も受け入れ可能とのことである。

○小寺書記

その週で調整を進めるが、もし難しいようであれば、少し後ろ倒しになるかもしれない。その際は再調整という形でお願いできればと思う。

○村木委員長

この週でということ、よろしく願います。各委員、日程は良いか。

○川上委員

午後が良い。

○笹田委員

13日が一般質問の締切りであるので、13日の午後は難しい。12日の午後はローカルマニフェストの関係で難しい。10日は請願・陳情の締切りで、朝から打合せがある。

○村木委員長

9日は会派の視察である。この週は難しいということになる。

浜田港振興会との意見交換を行うことだけを決定し、日程は別途調整するということにする。

それでは、浜田漁港・商港の関係については、取組課題についての質問事項などを漁港・商港班である程度まとめて案を示していただき、次回、それについて再度協議をする。また、現地調査の第一弾として、浜田港振興会に伺い、意見交換をするということによろしいか。

○大谷委員

浜田港振興会への対応はそれでよいが、日程が決まらなかった件について、どういう方向で調整するのか。前の週になるのか、後の週なのか。

○小寺書記

後の週で、なるべく早い時期に先方の都合とこちらの定例会議の様子を確認しながら調整できればと思う。

○村木委員長

よろしく願います。

(2) 中山間地の再生

○村木委員長

課題の確認や関係者などの意見聴取、先進地視察などで進めていきたいと思うが、今田委員から資料提供の提出があったので、説明をお願いします。

○今田委員

私たちの班も、まずは現状把握をしたいと考えている。耕作放棄地、遊休農地、空き家に関して、関係機関と意見交換をしたい。先進地視察は、九州方面という話があったが、調整が難しい状況であるので、まずは近場からということで、邑南町と川本町の視察を提案した。邑南町については、農福連携等推進協議会が現在動いていないとのことで、視察の受入れが難しいという回答があった。川本町については、3月の定例会終了後であれば視察受入れ可能とのことである。まずは川本町へ視察に行き、九州方面への視察も、調整ができ次第、行きたい。

○村木委員長

まずは関係機関との意見交換による現状把握、そして先進地視察として、邑南町は困難なため、3月定例会議以降に川本町を視察したいという内容である。進め方について意見があればお願いします。

課題について、先ほど漁港関係は班である程度まとめて案を出すことであったが、中山間地域における実態調査の対象先や項目などについて、何か考えがあるか。

○今田委員

現状把握の方法は再度班で話をし、意見交換をしたい項目を整理した上で、どの機関に意見交換を求めるかを決定し、示したいと思っている。

○村木委員長

中山間地域班においても、再度班で話をし項目を絞るということで、漁港商港班とほぼ同様の進め方となる。

○笹田委員

両方とも全員で取り組まないといけないので、LINE WORKSでやり取りしてもらえれば、中山間地域のことも分かる。私もこちらでやろうと思うので、中山間地域班も注目しながら見てほしい。その中で何かあれば意見が欲しいし、私たちが気付いたことは中山間地域のことについても、意見を言うかもしれないので、そこでしっかり整理したい。

○村木委員長

LINE WORKSをしっかりと使って、お互いの情報共有をしようというところである。視察について川本町からは定例会議が終わってからということなので、日程もある程度決めておきたい。

川本町への視察は日程としては3月18、19日頃で、各委員いかがか。

(「どちらでも良い」という声あり)

川本町への視察内容については空き家対策になろうかと思う。空き家対策、危険家屋関係について視察に行きたいので18か19日ということで仮に押さえておいてほしい。日帰りである。

結果として両課題とも、今から各班で課題を出してそれを皆で共有して、それぞ

れの関係部署、団体に向けて動くといったところかと思う。意見聴取についても班でやるのか、委員会でやるのか、決めておくか。

○小寺書記

班の中で相談してまた示してもらい、皆で行く必要があれば委員会の中で決めて、班でいくということであればそれはそれで報告してもらえればと思う。

○村木委員長

各班においては課題、質問事項、やり方、誰が行くというところも決めてほしいと。よろしく願います。

その他、取組課題全体で、委員から確認しておきたいことはあるか。

(「なし」という声あり)

3 その他

(1) 自由討議

ア 道の駅ゆうひパーク浜田について

○村木委員長

本日は1件の自由討議を行いたい。前回、笹田委員から提案のあった、道の駅ゆうひパーク浜田について自由討議を行いたいが、よろしいか。

(「はい」という声あり)

それでは、道の駅ゆうひパーク浜田についての自由討議を始める。

この自由討議は、12月の委員会の報告事項にあった事業計画書に対し、委員からは、様々な意見があった一方、委員会として、計画に対する賛否を示してほしいとの要請があったため、各委員の施設や計画に対する考え方を、整理することを趣旨とし、最終的な目的は、委員会として提案のあった計画書に対する意見をまとめることとしたい。

そのため、今回と次回の2回に分けて、自由討議を行いたい。今回は、まず、各委員に意見を自由に述べてもらう。出た意見を整理する期間を設け、次回の委員会で産業建設委員会としての意見をまとめるような形にするが、このような進め方でよろしいか。

(「はい」という声あり)

それでは、提案のあった計画書に対する意見を聞く。

最初に、笹田委員から願います。

○笹田委員

自由討議をお願いしたのは私なので、私からまず意見を述べたい。

前回、管理される予定の方も来られ、いろいろ話を聞いた。その中で、相当厳しいのではないかという気持ちがあった。公園のことなどいろいろ聞いたが、まだ決めきれていない、今後やっていくという意見が多くて、不安を感じた。委員会が「これで良いのか」と言った内容とほぼ変わっていないことが出てきたことで、ちょっと厳しいのではないかと個人的には思っている。また、前市長の中で進められてきたこと

を、新市長が新たにこれをするというのはどうなのか。私としては一度白紙にしても、新たな新市長の意向も踏まえた計画にしても良いのではないか。これはあくまで個人的な意見であるので、最初にこういった思いであることをお伝えする。

○村木委員長

その他、自由討議であるので、意見はあるか。

○川上委員

私もこの計画そのもの自体が、これまで私たちの意見が反映されていない。ということは、基本的に変わっていないのだと思う。自分たちの考えでやりたいということばかりなので、浜田市民のためにこの施設を買ったのであれば、新たな市長に再度預けて、どういう形でこれを使うかということを委員会としては言うべきではないかと思う。現在の優先交渉権者は少し控えてもらい、新たな方にもう一度見てもらうチャンスを与える必要あると思う。

○小川委員

ゆうひパーク浜田株式会社がやっておられ、現状を聞くと、すごく頑張っているという話も聞いている。そういう意味では、計画を立てられているが、現状のままでも良いのではないかと思う。特に、コンビニを前面に持ってくるということが、そのことによるマイナス面が大きいような気がしている。極端なことを言うと、例えばコンビニで買った食べ物を駐車場で食べてそれで駐車場が満車になるなどというようなことに使われたのでは、ゆうひパークとしての機能がどうなのか。細かい部分で言うと、夕日が見える最初の入口のスペースを奥へに持っていく。そうすると、日本海や夕日が見える角度が全く変わってきて、今のようないきれいな風景を見ることができなくなる。あの狭いスペースの中でイベントと一緒にやることになると、道の駅としての機能が低下するのではないか。現状のままで特に問題はないとすれば、今のままで良いのではないかということを持ちながら、あのようなプロポーザル方式でやったことについても少し疑問を感じている。

○今田委員

私が思うのは、選挙も行われて議員も入れ替わって、市長も代わったというところで、またいろいろな意見が出ると思う。公園とか展望台とかも含めて、ちょっと前に行ったときも少し草が伸びた状態で管理が行き届いていないのかと思った。その活用や管理という提案もなかった。そういったところをまとめて提案をもらって、しっかり審議することも必要かと思った。今一番まずいと思うのは、現状で運営をされている会社はいつまでやれば良いのかというところ、あとは企業側がどういう提案まで持っていけば認められるのかというところが、宙ぶらりんになっている状態が問題だと思うので、早めにこちらが方向性を示して、そこに向かっていくというところがないと、どの機関に対してもまずいと思う。

○大谷委員

これまでの運営会社のやり方で現状がこうであるので、それに対しても疑問符はある。それと、提案があった会社についても、先の内容はいろいろやるということが

あるが、それが確実にやれるかどうかは疑問もある。とは言いながら、山陰道がこの年度中に、開通をするタイミングの中で、新たな事業者で展開をと考えていたところが、そこに至っていないということもあり、時期を逃してしまうということも心配である。どういう状況が適切かということになるが、疑問のまま前に出るということもできかねる。かといって、時間は多くないという状況がある中でどう判断するかということであるが、当初、コンビニが前面に出てくるということに対しては、他のところにおいてもコンビニで収益を上げるような方向性のところもあるので、それについては、私は問題にはしていない。ただ奥まったところに移転する観光案内施設が具体的にどのような展開になっているかということが見えにくいという点は、前から言っている。

そういう中で、どう判断するかということになったときには、現状においてやろうとしているところにやらせてみるのも一考かなと、方向性としてはありかなとは思っている。

○西田一平副委員長

前回の業者が来ての説明のときにも話したが、早急に進めるべきであると考えている。その理由が、今回浜田市が買って、無償貸付で新たな事業者を選定したというところであるが、現状の企業のままであれば、そういったやり方の前例となってしまうところと、再度白紙にして公募をしたところで、業者の手が挙がるかが分からないということになれば、現状の企業が手を挙げて、もしそこに決まったとしたら施設自体が何も変わらないのではないかと懸念がある。浜田市としても、抱える箱物の手を離していきたいという現状で、なかなか指定管理業者として再度事業者を募集するというのも難しいと思う。無償貸付であれば2企業出ていて、優先交渉権を獲得されて、その中身の是非はあると思うが、できる限り早く進めて、先ほど山陰道のタイミングとか、現事業者がいつまでやり続けるべきなのか分からないという話があったので、一刻も早く生まれ変わるゆうひパークに進めていくべきだと思っている。

○村木委員長

今回自由討議をするに当たって再度過去の資料を見た。令和6年8月30日に「道の駅ゆうひパーク浜田の今後」ということで、資料提供が当委員会にあった。その事業コンセプトに道の駅としての事業をするということで、道の駅の機能として休憩機能、情報発信機能、地域連携機能がうたってある。改めてこの新しい計画を見る中で、随所にそのような形はあるものの、果たして休憩機能や情報発信が奥まったところに行く。地域連携、確かに多くの店が並ぶかもしれないが、その会社会的なところが果たして地域連携機能を担保できるだろうか。

約半分の委員が視察に行った。令和5年に安芸高田の「三矢の里あきたかた」、令和6年4月には「西いなば気楽里」。どちらも共通しているのは、地域の会社が地元と連携しているといったところがあり、委員会の考察としてもそういったところをしっかりと学んでほしいとしたと思っている。その辺を考えると、委員会が当時思っていたこと、また、コンセプトについても道の駅としての機能が本当に果たしているのだら

うかというところに、正直疑問を感じている。

今回、普通財産の無償貸付という新しいやり方ということ、さらに私たちが行った2か所は指定管理だったというところもあるが、そもそも本当にこの浜田で普通財産の貸付のやり方が良かったのだろうか。当時も私自身も委員であったので、それでここまで来たというのも否めないが、こうして進んでくるとその部分にも行き着いてしまう。

また、新市長になってからということで、総合振興計画も三隅酒造跡地の関係、立地適正化計画など、大きな計画が新たな市長の下でということもあった。ゆうひパーク浜田においても、15年もの長い期間、パートナーとしての付き合いをする中で、再度考える必要性があるのではないか。

○大谷委員

そもそも民間で造られた施設を行政が買い取る形で、一般財産としてやろうとするというところそのものが、条件が厳しいと指摘できると思う。

西いなばもあれは地元業者や商工会が中心になって、新しい会社を立ち上げられた中で、設計からコンセプトまで、立ち上げた会社と自治体とが協議しながら、造り上げたものであるので、今回のケースの目標としては良いが、流れ的には参考にしにくい。そもそも、民間の建物をそのまま活用しなければいけないというところに制約がある。なかなか事業計画書をやり直すとなったときに、出てくれば良いが、最悪の場合、直営でやるのかという話になってしまうので、それが一番心配である。市民の財産を使ってやるわけであるから、市民に対する還元ということも十分考慮しなければいけないと思うが、これが負の財産として残ってしまうことは避けなければいけない。その意味であれば、前に進めるということが、現時点では最善と思う。

○笹田委員

誰が管理してもこれからは多分黒字になると思うので、手が挙がらないということは多分ないと考える。

前回の委員会で言ったが、優先交渉権がなくなった場合どうするのかと市に聞いたときに、次点の方にするのか、新たに公募するかもしれないという話であったが、私は新たに公募すべきだと思う。前回の市長がどういった形で、2社にゆうひパーク浜田をどうしてほしいかと言ったか正確には分からない。新しい市長に、今度ゆうひパークをどうしてほしいかと考えたときに、細かいところまで多分要望されると思う。そうなったときに初めて、市長が描くゆうひパークだとか市民が寄り添うようなゆうひパークの絵が描けるのではないか。それに応じたプレゼンをやってもらうことで、市民も来やすいといったところに期待するしかないと個人的に思った。

○西田一平副委員長

白紙にしたときのリスクであるが、新規参入の会社であれば理解するが、現状、浜田市内のいろいろな施設をお願いしている会社である。そこのモチベーションの低下や、全部やめてしまうみたいな話になったときに、すごくリスクが大きいのではないのかと考える。機能的なところでもあるが、市民のための施設なのか、道の駅、高

規格道路、バイパスのすごく便利な休憩スペースなのか、というところも引っ掛かる。冷静に考えたときに山陰道がすべてつながると、ゆうひパーク浜田を出たら道沿いにあるのは宍道まで行かないとないということを考えると、コンビニで何か買ってそのまま行くみたいなことだと、コンビニで良い。市民であれば、フードコートやあそこにしかないレストランもあると思うので、行くのではないかと考えているので、リスクの部分はどうなのか。

○笹田委員

どっちのリスクが重たいかだと思う。今の業者に逃げられるリスクと15年あのまま預けるリスク。リスクをどう考えるか。私は後者のリスクを重く考えているので、今のうちにリスクを消したい。

結局、これは私たちに決定権はあるとしても、議案を出すか出さないかは市である。市に出すなとも言えないし、出せとも言えない。私たちの意見を聞いて判断すると思うが、そのリスクがそれぞれ違うと思うのでこういう議論になっている。私は逃げるといえることはないと思う。浜田市のいろいろなところ指定管理してもらっているが、ゆうひパークだけのことを考えたると、この計画だと15年丸々預けたときに果たして本当に良い施設になるのだろうかというリスクを考えている。

○大谷委員

黒字に本当になるのか。投資という面で改善していかないと、それを維持することができないと思う。そこがどうなるかという点で、そもそも黒字になっているのも、市が持っているから黒字になるわけで、今後、どういう展開を促していくかということも大事かと思う。白紙ということについて、今後どういう展開になるかということがまだ見えない中では、市民に対することも大事であるが、一義的には道の駅であるので、道の駅としての機能を十分に果たせるような展開を、市民へ持っていくべきだと思う。

○西田一平副委員長

黒字になるのであれば、なぜ2社しか出なかったのか。再度公募し直したときに、集まるのかどうかという話で、多分無償貸付であれば集まらないかもしれない。指定管理だと集まるかもしれないみたいな議論もあると思う。そうすると今度指定管理でやろうとなったら、浜田市としてはそういう管理物件を減らしていきたいという意向の中でまた矛盾が生まれてしまう。

○川上委員

あの施設は普通財産にした。別に公に出てくる財産ではない。利益の話だが、現時点でも利益が出ている。なぜかと言えば、賃料がないからである。これからも賃料なしでやらせるのであれば利益は出る。あとは、インフォメーションとしての機能をどこに出すか。戦略的な問題や施設の構成について少し疑問点があると皆が言っている。新たな事業者が来るか来ないかという話だが、プロポーザルの内容がどうかによって決まってくる。なぜ今の事業者に対して良くないと言っているかということ、前回のプロポーザルの提案内容がまずかったということである。執行部の。それが見えて

いれば、もっと良い話ができると思う。何を投げてこの2社を呼んだのかという話である。会社の規模はこれだけなければ駄目とか、ほかのところに会社がないとれば駄目とか、いろいろな条件を付けてしまったから、応募が少なかったとしか思えない。ぶつけ方が悪かった。市がやっているプロポーザルは全部そうである。自分たちがやりたい方向に持っていくためのプロポーザルである。前の市長の考え方がまずかったのではないかと私は思っている。

新たなところで新たなプロポーザルをして、どういう形で集まるかと、新たな執行部、市長が考えてやるのがベストである。今のままでは整理をしている状況になると思う。掃除をしている状況ではないかという気がする。

○村木委員長

執行部の提案内容というのは執行部の仕様書のことか。

(「はい」という声あり)

○笹田委員

普通財産からまた公共施設に戻してというのは、執行部は考えてないと思う。普通財産になっているから無償貸付だろう。無償貸付の上でどうやって管理してもらうかとしか考えてないと思う。普通財産だから公共施設じゃないのかという議論もあるが、わざわざ公共施設に戻して、公共施設を増やして指定管理するという事はないと思う。

○西田一平副委員長

指定管理で募集しようがないという現状。そのルールを変えるなり、根本を変えればできるが、今現時点では無償貸付けしかできない。

○笹田委員

長く施設を管理してもらうためにわざわざ普通財産に落とした。そういった意味で、また3年とか5年とかの指定管理とかということは考えていないと思う。修繕費も向こうに見てもらおうという考えである。議論しても仕方がないが、おそらく市は普通財産として落とした以上は、長年管理してほしいという思いでやっている。

○今田委員

よく尾道松江間の高速の高野インターチェンジがあり、そこに「道の駅たかの」があり、冬は絶対そこに寄って帰るが、すごく活気があって高野町民の皆にすごく愛されている道の駅である。思うのは、浜田市民に愛される道の駅じゃないと駄目だという気はしている。中国道や山陽道にあるサービスエリアであれば機能性を求めるのは重要だと思うが、尾道松江間の高速や山陰道の道の駅は、地元住民が活躍できる場であり、その人たちに愛される場である必要があると思う。今のこの提案を見る限りでは、機能的なところや集客というところが前面に押されている感があるので、皆の意見を業者に聞いてもらって、それを盛り込んでほしい。いろいろな意見、機能的なところもあったが、市民に愛されるような提案もいろいろあったと思うので、その辺が加味されていないという不満も多分あったかと思う。

○川上委員

西側2階は石見神楽の施設にしたらと思っている。そうすると人流が流れてくる。2階の東側の食堂へも行けるはずである。今はそこへ行く余裕がないから駄目である。神楽を使うと市の政策にぴったりはまる。石見神楽の保存伝承とか観光施設の活用だとか、若手担い手とかで、そうすれば良い。単なる展示ではなくて、常設展示、定時上映、体験型、長期の上演をときどきするとか、そこを使って子どもの学習の場にするとか、文化の部分でできるので全部考えるべきだろう。

そういうことを考えながら、インフォメーションを使いながら、観光につなげるということになると、より一層良い。今の計画ではどう見ても、コンビニがあって、それが第一で、あとは2階の東側に何か住むと。エントランスは何か物を置いておく、見学できる、遠くが見える、直販もあるという、ただそれだけである。もうちょっと検討する必要があったのではないかと思う。そこも考えずに、押してくるから駄目だと言っている。コンビニにしても、コンビニの立地にはインフォメーションがある。観光案内場所がある。そうすると、コンビニに入っていく人は必ずその観光のことを見ながら入るといふことも考えないといけなかった。

○西田一平副委員長

それであれば、今の計画書に神楽のことも書かれているし、直売所のことも書かれているので、白紙にしてまでやることなのかという気はしている。その会社に対して要望して、多少変更してもらうことはあったとしても、道の駅たかのとの比較とか、高野も結構よそ者が行っているイメージもある。その町の人に愛されているかどうかというのは私には分からない。全部をひっくり返してまでやる、すごく時間の要することであるし、向こう1年以上今のゆうひパークがそのままになってしまうのはいかななものなのかと思う。

○川上委員

この計画が良いというのではない。なぜそんなところまで考えなかったのかと。サンセットエコノミーを聞いてがっくりした。沈下する施設のような感じで見てしまった。去年の時点でそういう話をしていた。いろいろなこと使えという話を。なのにこれしか出てこなかった。変わっていない。変わる気はない。半年経過してもこれであるから、期待する必要はない。新たな施設に新たにプロポーザルをして新たな方に市民のためになるように。もっと市民が求めることにすべき。仕事としては、会社としては今の状態が必ずもうかるし、手間も要らない。それでは駄目だと思う。市民の話を聞いていない、私たち議員は市民であるが、議員の話が出てこない。本当に市民がそれで良いと思うのかと思った。

○笹田委員

私も時間をゆっくり使って考えるべきだと思っている。そんな急ぐこともない。今しっかり管理されている。管理されていなかったら急がないといけないと思う。ゆっくり考える、しっかり考えた上で15年、こういう施設になる、楽しそう、というような形が出てくるまで頑張れば良いと思っている。市が決めることであるが、1回出したものがあまり変わらず返ってきたというところも、委員からしたらどうなのか

と思う。また、納付金の話であるが、毎年100万円は不要だと思う。委員それぞれでも全然まとまっていないと思う。急がなくて良いのではないかな。

○村木委員長

行政視察のことを言って、西いなば気楽里の話をした。ここは特別な関係で、浜田の道の駅に置き換えると難しいところがあるかもしれないが、行って学んだこともある。報告書に書いてあるが、「最も重要であるのは、どのような組織が運営するか、運営組織の力量をどのように判断するかであると思われる」と。今田委員が言われた市民に愛されるというのは、関わるころだと思う。多くの組織や個人、西いなば気楽里の株式やり方は難しいかもしれないが、どれだけの市民が関わるか、それを仕掛ける組織が大事だと思っている。どのような組織が運営するかということが大事だと思う。

○小川委員

抵抗があったのはコンビニができることである。シャワー効果をもつてすごくアピールされていたが、本当にそうなのかということに疑問を感じている。経営されるに当たっては、レストランなどを切り離れた形になるとすれば、家賃収入だけで、あとはコンビニの売上でというような形になっていった場合に、例えばコンビニで買って車に乗って弁当を食べて帰ってしまうなど、レストランを使うという客が目の前にコンビニがあれば、それで済ましてしまう可能性が高いのではないかな。そこまで足を延ばすのだろうか。その先にある地元の土産を置いているところまで足を運んでもらえるか、目の前にコンビニがあると難しいと感じている。

それと、雇用の問題である。地元雇用と言われたが、実際どれぐらいの規模でやれるか、おそらく地元の産直品のところだけしか地元の雇用として考えておられないのではないかなという印象を受けた。市にとって必要な施設だから買ったということであるが、その理解が得られるだろうかということも疑問がある。まだまだ曖昧なところが多いと感じている。

以上である。

○西田一平副委員長

地元という話が出てきているが、今地元企業が長年やっていて、地元の人に今は愛されていないという感覚なのか。もっと愛される方法があるのではないかなということだと思う。地元の企業がやっているから地元で愛されているんだという話の報告だと思うが、今地元がやっているのに地元で愛されていないのかというのが疑問である。愛される施設に生まれ変わろうということは、今は愛されていないという認識。そもそも経営が厳しかったという答えは出ているが、地元の企業がずっとやっての現状なので、ほかの地元浜田の企業が手を挙げて、そこをお願いしてうまくいくのかということが気になった。

○笹田委員

地元の企業が今やっているが、今の案だと、白紙にして市長が新たに細かいところまでプロポーザルをして出てくるところが、地元じゃない可能性も十分ある。地元

の話は今後の話でするのは難しいかと思うが、あくまでも今の段階で市民が行くかという、あまり行ってないと思う。私もモスバーガーを食べることはあるが、土産を買うこともない。愛されているかどうかと言えば、現状は厳しいという感覚である。ただ、愛されていないからこそ、愛される施設になってほしいと思うので、もう少し考えるべきである。誰が管理するか分からないが、そういう思いである。

○大谷委員

コンビニの件もいろいろ論議があるが、メリットとしては24時間されるということで、山陰道を使っている方が活用できる。24時間明かりがあるのはメリットだろうと思う。また、周囲の観光施設に向けてつながりを持てるような施設としての、観光情報発信の場としては、リーフレットそのものができていない。観光協会がするのか分からないが、その業者だけでは対応できない部分もあると思う。あるコーナーに行ったら、1枚のペーパーで概要と道順が示してあるようなリーフレットが40何枚も置いているような施設がある。そうしたことができるかどうか、地元の産品が店頭で並ぶ仕組みができるかどうか、その辺も大事だし、地元で加工した土産がどれだけできるか、その開発を促すような努力を業者がするかどうか。まだ見えにくい点はあるが、やるとは言っているので、期待したいという思いで話している。どこまでできるかという点は完全に信用できないが、その会社だけでなく、周囲が盛り上げていくとか、支援するような事業に持っていけるだけの力があれば期待できると思った。

○村木委員長

自由討議は次回もう一度するが、今回は意見としてまとめるとで、この計画の賛否を確認したいと思っている。

○笹田委員

いろいろな意見が出たが、多数決をして委員会の意見にすることではないと思う。議案でもないのだから、委員会としてはこういった意見があった程度にとどめないと難しいと思う。議案として出たときは賛否を出すけど、こういう思いがあるという話しかないので、手を挙げて賛成・反対と言うのは難しいと思う。

○川上委員

今言っている意見は両方ある。こういう話もあった、こういうことを希望している、という形で意見をまとめたらどうか。27日に整理するだけで良い。

○今田委員

産業建設委員会としての意見を示して、こういう意見があるということで執行部側が最終的な判断をするということか。こういう意見はあったけど、この会社でやると執行部が思えば、突き進むという話にはなるということか。

○川上委員

そうだが、今度は議案で出てくるから、そのときは賛否を問う。それを加味して多分考えられると思う。

○村木委員長

暫時休憩する。

[14 時 56 分 休憩]

[15 時 03 分 再開]

○村木委員長

休憩前に引き続き会議を再開する。自由討議の続きである。

先ほど、賛否の話をしたが、「まとめる」という表現に言い直す。この委員会として、賛成の意見がこう、反対意見はこう、というような形でまとめたい。

また、後ほど話すが、全員協議会でも、議会の皆にもこのことについて問う自由討議をするようなことを考えてみたいと思っている。

○笹田委員

いつの時期か。

○小寺書記

今日が1月22日で、来週1月27日も産業建設委員会があり、2月6日に全員協議会があるが、前後のスケジュールの関係でこの日の自由討議は難しいかと思っている。正副委員長と話したところでは、仮に全員協議会を少し早い時間、9時とか9時半とかに始められれば、自由討議を少し早い時間から議員だけで始めるようなことをやれば、2月6日に道の駅ゆうひパーク浜田の自由討議はやれなくはないと思っているが、別日の検討が必要なこともあるかと思っている。

○笹田委員

温度差が出てくると思う。委員外議員と産業建設委員で。委員は前のことも分かっているし、いろいろ話も聞いている。前回委員会にも来てもらったYouTubeを見ていけば別だろうが、同じ思いで話ができるのかとも思う。もしやるのであれば、しっかり把握した上で、自分の意見を持ってきてもらうのが大前提だと思う。あまり議論にならないければ意味がないと思う。

○大谷委員

地元の土産物が並んでいることによって、道の駅の特性やオリジナリティーが出てくるので、道の駅の活性化につながると思う。地元産品の陳列商品を何割並べるといような枠があれば良いと思う。条件設定としてそういうのが事前にはないが、今後に向けてそういう条件を設定すべきと思う。

以前、ある職場で原価率についてプレゼンを聞いたときに、1%の違いで可否が分かるようなことも昔あった。地元を生かしていくという観点の中で、すぐは無理かもしれないが、何年か後にはこれだけの地元産品を並べるといような条件設定ができないかと思っている。

○村木委員長

私の進行がまずかった。

自由討議の最中に全員協議会の話をしてこんがらがった。自由討議に戻す。

条件設定という話が出た。その辺も27日の中の意見に入れる。

言い残すことがないようにしてほしいが、よろしいか。

(「はい」という声あり)

それでは、以上で道の駅ゆうひパーク浜田についての自由討議を終わる。27 日にもう一度まとめをしたい。

先ほど言ったが、全員協議会での自由討議の提案を、議長に言わないといけない。前回、この計画は全員協議会で報告があったのは事実であるが、温度差はあるのではないか。委員会だけの判断で執行部が動くのはどうなのか。皆はどう思うか。

○川上委員

産業建設委員会で長時間協議している内容であるので、全員協議会まで出す必要があるかどうか疑問である。あくまでも報告事項で良いと思う。

○今田委員

委員会でもこれだけ意見が割れているので、全議員がいる全員協議会で自由討議をして、皆の意見として集約して、それを執行部に、意見として示すというやり方もあると思う。委員会ではこう、全員協議会でもこういう意見が出たというのは、判断材料にしてもらえばと思うので自由討議は全員協議会でやっても良いと思う。

○西田一平副委員長

賛否を決めるのであれば全員協議会と思ったが、こういう意見が出たというだけであれば、この場でしっかり話ができているので、委員会としての意見だけで良いと思った。全員協議会にしてしまうと議会全部が責任を負うというか、「議会のせいで決まらなかった」みたいなことになるのはどうかと思うので、あくまでも委員会として、イエスの意見とノーの意見はこのようなものが出ていたということで良いと思った。多分、全員協議会でも同じことになると感じた。

○笹田委員

27 日の話を聞いて、ある程度執行部は方向性を決められると思う。そのあと全員協議会で話しても、やるという話になったら議案として出てくる。そこで全員で議論することになる。議案を出すか分からない状態の中で、執行部が全員の意見が欲しいと言ってきているわけではないので、タイミングによると思った。まだ迷っているのであれば、やる価値はある。27 日のところである程度の方向性が決められるのではないか。だから、委員会としての賛否が欲しいということ言われているのではないか。

○村木委員長

27 日にもう一度協議させてほしい。

それでは、次回の委員会もこの件を引き続き行い、全員協議会に話を持っていくかどうか改めて協議をしたい。

その他、委員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

事務局からお願いします。

(「なし」という声あり)

最後に、次の委員会は引き続き自由討議と執行部報告事項、所管事務調査がある。

事前に読み込んでおいてほしい1月27日火曜日の午前9時30分から行う。

以上で産業建設委員会を終了する。

[15 時 13 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

産業建設委員会委員長 村 木 勝 也